

ある日酔った米兵が2人我が家に

あかしあ法律事務所弁護士 平山知子

私は、1948年から、原宿に住んでいます。一面の焼け野原、ぼうぼうと生える雑草をえさに山羊を飼い、その乳を飲んで、飢えをしのぎました。表参道の石灯籠に近づくのはいやでした。空襲でたくさんの人が焼け死んで、その焼死体の脂で、雨粒がころころになると聞いていたので怖かったのです。近くにワシントンハイツという米軍宿舎がありました。ある日酔った米兵が2人我が家に押し入りました。母は私を横抱きにしながら、必死に裏口から逃げました。

あれから60年あまりたち、原宿の街はすっかり変わりました。ワシントンハイツは代々木公園になりました。

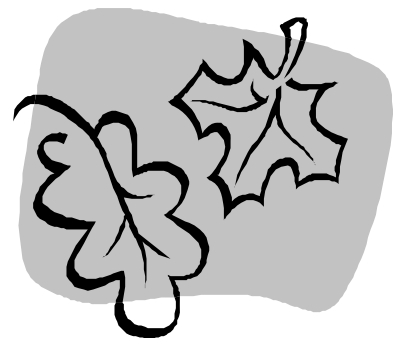
でも、沖縄や横須賀では、私が小学校時代に体験したことは、今でも現実に起こっています。酔った米兵による住居侵入は日常茶飯事、女性たちが襲われ、心身に深い傷を残しています。

沖縄県民があれほど反対していた欠陥機オスプレーも、当たり前のように配備され、普天間基地近くの住宅密集地上を毎日飛んでいます。オスプレーの訓練ルートは、日本全国です。東京も例外とはいえません。現に、毎日米軍ヘリが原宿の街の上を低空で飛んでいきます。横須賀や横田基地から六本木ヒルズの近くの麻布ヘリ基地まで行くためです。

日本の歴史を見ても、外国軍の基地が67年間も居座り続け、日本の陸も海も空も事実

上占領され、主権を奪われ続けているなんてあり得なかったことです。根源は、日米安保条約。でも、日本の安全保障どころか、アメリカの起こしたベトナム・イラク戦争などのための基地としての利用し尽くしただけです。日本国民の安全や人権を阻害し続け、アジアの軍事的緊張を高めています。

自衛隊も日米安保条約も日本国憲法(前文・9条)とは絶対に相容れないものです。安倍政権の下、これから憲法改悪の動きに拍車がかかるでしょう。今も当時のままの表参道の石灯籠と朝夕の米軍ヘリの音は、私の小学校時代の恐怖の原体験を思い出させます。それはまた、米軍基地をなくしたい、憲法を守り抜きたいという、私の力の源泉にもなっているのです。(草の根運動共同代表)



「オスプレー配備やめよ」

沖縄の全41首長、議長、県議が、1月27日
東京で訴え、安倍首相「建白書」を拒否
低空飛行被害は全国で、全国164議会反対